

CONTENTS

- 01 Cure病気のおはなし
- 02 Cure検査のおはなし
- 03 地域医療を知ろう
- 04 TOPICS／高速マルチスライスCTで精密検査が受けられます。
- 05 みよし市民病院を支えるチーム活動
- 06 介護士、看護助手 募集中!

サツキ 晴れ

Satsuki
bare



院長
メッセージ

急性期の治療を終えても、誰もがスムーズに元の生活に戻るわけではありません。後遺症が残ったり、身体機能が衰えたりして、すぐに退院できないこともあります。当院はそうした方を支えるために、地域包括ケア病床を用意しています。今回の特集は、地域包括ケア病床の機能や役割を改めて詳しく紹介しました。ぜひご一読ください。



SPECIAL REPORT

中日新聞「リンクト」
LINKED plus+
病院を
知ろう

地域包括ケアの
拠点病院をめざす。

地域包括ケア病床特集

ご自由
にお持ち
ください

みよし市民病院
Miyoshi Municipal Hospital

INFORMATION

介護士、
看護助手
募集中!

明るく元気な職場が自慢!

みよし市民病院で介護士、看護助手として働いてみませんか?
介護などの資格がなくても働けます。

病院見学も随時受け付けていますので、気軽に病院職員に
お声がけをいただくか、管理課までご連絡ください。

皆様のご応募をお待ちしております。

私たちと一緒に
働いてみませんか?

お問い合わせ

みよし市民病院 管理課
TEL 0561-33-3300

詳しくはこちら



看護師など常勤職員も募集中!

現場で働く
スタッフたちの様子を
ご覧いただけます。



みよし市民病院の理念 みよし市を愛し、みよし市民の健康に寄与することを誓います。

基本方針

- 1 患者さんの尊厳を重視し、公正な医療を行います。
- 2 思いやりと、心のふれあいを大切にした医療を行います。
- 3 常に医療の進歩に目を向け、質の向上に努めます。
- 4 市民の皆さんに信頼される医療を行います。
- 5 地域医療の向上を目指し、保健・福祉との連携を図ります。



病院広報誌 特設サイト

サツキ
晴れ

地域の皆さんや連携機関の皆さんと「みよし市民病院」を情報で繋ぐ、広報誌連動型コミュニケーションサイト。ぜひご覧ください。 [こちらから](#)



LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「サツキ晴れ」のLINE〈公式〉アカウントを開設しました。QRコードから「友だち追加」をお願いいたします。



みよし市民病院
Miyoshi Municipal Hospital

〒470-0224 愛知県みよし市三好町八和田山15番地
TEL 0561-33-3300
<http://www.hospital-miyoshi.jp/>

サツキ
晴れ
Satsuki
bare

発行責任者／院長 伊藤 治
発行／みよし市民病院 広報グループ
記事提供／中日新聞広告局
編集協力／プロジェクトリンクト事務局
発行日／2022年1月

SPECIAL REPORT

地域包括ケアの 拠点病院をめざす。

地域包括ケア病床特集

住み慣れた地域ですっと暮らせるように
 病院から在宅への流れをサポートする。



CHAPTER 01 安心して在宅に戻る ための準備期間。

みよし市民病院の地域包括ケア病床では、毎日お昼どきに多職種が集まって、入院患者の個別カンファレンスを行っている。主な参加者は、主治医、看護師、理学療法士、薬剤師、地域連携室の職員など。この日は、高度急性期病院で大腿骨頸部骨折の治療を終え、昨日、転院してきたばかりの80代男性患者について、皆で情報を共有していた。「この方はご夫婦ふたり暮らし。奥様の希望は、トイレまで自分で行けるようにリハビリしてほしいとのことでした」と看護師。続いて理学療法士が、歩行能力の評価について述べた。「現在は車いすで、まだ立ち上がることはむずかしいようです。トイレの自立を目標にしつつ、まずはポータブルトイレの自立をめざして訓練したいと思います」。このほか、患者の生活環境についても意見が交わされ、早急に家屋を訪問し、段差や手すりなどについて調査することを取り決めた。

この患者が入院する地域包括ケア病床とは、どんな病床だろうか。病床の責任者である竹内和男（看護師）に話を聞いた。「地域包括ケア病床は急性期の治療を終えた方を受け入れ、在宅復帰に向けて医療管理、リハビリテーション、退院支援などを行う病床です。リハビリして早く家に帰りたい、という人だけでなく、家へ帰るために家屋改修などの準備が必要な人、入居施設が

CHAPTER 02 地域の病床として 活用してほしい。

同院では現在、地域包括ケア病床が14床、稼働している。令和4年度には18床に増床。ゆくゆくは急性期病床（68床）の約半分を、地域包括ケア病床に転換する計画を持っている。その狙いはどこにあるのだろうか、伊藤 治院長に話を聞いた。「もともと当院の事業管理者である成瀬 達医師が、地域包括ケアシステム（詳しくは「ラム参照」）の拠点病院を作りたい、という構想を持っていました。その実現のために、当院は地域包括支援センターや訪問看護ステーションなども併設し、院内で医療・介護・福祉の相談を受けられる体制を整えてきました。地域包括ケア病床の増強も、その延長線上にあるものです。この病床を増やすことによって、より一層地域包括ケアシステムの拠点病院としての存在感を発揮していきたいと考えています」。また、同院の強みは、急性期病床や地域包括ケア病床だけでなく、療養期の

なかなか見つからず、探している人など、いろんな目的で入院していらつやいます」。地域包括ケア病床の入院期間は2カ月間が基準。竹内たちは、その間にできるだけのことをして、患者が最善の生活を送れるよう支援している。同時に、地域包括ケア病床は在宅療養中の患者を支援する役割も担う。総看護師長の高橋和恵は「病院から在宅への一方通行だけではなく、在宅で療養している人たちの手助けになるような病床でありたい」という考えを話す。「在宅で療養中に急変すると、ご家族は心配です。そんなときにいつでも受け入れたいですし、ご家族の介護疲れを解消するためのレスパイト入院にも力を入れていきたいですね。在宅で安心して療養できる受け皿として、もっともっと機能させていきたいと思っています」。

COLUMN

●（地域包括ケアシステム）とは、要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるように地域で支える体制のこと。支援の必要な人に、医療・介護・予防・住まい・生活支援のサービスを一体的に提供し、地域の特性に応じた体制を整えていく。

●地域包括ケアシステムは、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年を目途に構築することをめざしているが、コロナ禍の影響で計画の遅れも指摘されている。

病床を併せ持つケアミックス病院であることだ。「どうしても2カ月の準備で在宅に戻れない場合、もう少し長く入院を続ける、という選択肢も提供できます。そのことも、患者さんの安心感に繋がると思います」と伊藤は話し、今後の展望について次のように続けた。「高齢化が進み、今後ますます病院ではなく、在宅で療養する人が増えていくと思います。そうした方々に、退院しても安心して療養できる環境を提案していくのが当院の大きな役割です。そのためにも、地域包括ケア病床は、当院の病床というよりも、（地域の病床）として、地域の皆さんに積極的に利用していただきたいですね。たとえば、周辺のクリニックにかかりつけの方の、在宅療養中の急変やレスパイト入院などに使っていただく。周辺の在宅医療介護を担うスタッフとの連携を深めることで、地域で皆さんを支えるために役立つ病床です。療養生活でお困りのとき、へとりあえず市民病院に行けば何とかなる」と思っていただけ

BACK STAGE

病院から在宅への流れを シームレスで支える重要性。

●超高齢社会の進展に伴い、医療の中心は病院から在宅へ移り、まさに「ときどき入院、ほぼ在宅」の時代が始まっている。そのとき、病院の医療と在宅の医療・介護の連携体制が、安心の療養生活の鍵を握る。

●みよし市民病院はその重要性をいち早く察知し、病院から在宅へシームレスに繋ぐ体制づくりを強化してきた。病気や障害を持った人が誰一人困ることなく住み慣れた地域で暮らしていくために、同院の挑戦は続く。



Cure 病気 のおはなし

先生、
教えて!

今回のテーマ

大腸がん

早期発見できれば、
治癒が見込める大腸がん。
生命線は年に1度のがん検診受診。



進行がんになる前に、 見つけるチャンスとは?

日本人が生涯のうちにがん罹患する確率をご存知ですか? 男性62%、女性46%(※1)、なんと2人に1人は罹患しています。適切な治療を受けて治る方もいる一方、残念ながら助からない方もいます。その中で、大腸がんは、がん死亡人数2位(※2)と、特に注意しなければならないがんの一つです。では、大腸がんはどうすれば治る段階で見つけることができるのでしょうか。一般に大腸がんの症状は、血便、便秘や下痢を繰り返す排便障害などですが、ほかのがん同様、症状が出たときはすでに進行がんとなっています。治せないほどの進行がんになる前、できれば早期がんのうちにみつける方法(チャンス)は検査

を受けること。その一番簡便な方法は
大腸がん検診を受けることです。

※1) 国立がん研究センター2015調べ
※2) 2015年調べ、女性1位、男性3位

チャンスを活かし 神様のくれたサインを逃さない。

一般に、35〜40歳を超えると、住民健診や企業健診などで、大腸がん検診の対象となります。そのチャンスを逃さず受けていただくことが大切です。多くの場合、便潜血検査を2日法で検査します。どちらか1日でも陽性となった場合、精密検査つまり大腸内視鏡検査を行います。ときに「自分は痔があるから」と痔からの出血と決めつけて検査をしない方がいます。また、「もう一度、便潜血検査をしてほしい」という方もいま

す。病気からの出血は、治りの悪い傷からの出血と同じです。たくさん出血するときもあれば、しないときもあるでしょう。もし、次の便潜血が陰性でも安心できる理由にならないのです。検査陽性は神様がくれたサインです。ご自身に大腸精密検査を受けるべきことを知らせるサインであり、大腸がんが不幸な転帰とならないための大切なサインです。陽性となったときはそのままにせず、必ず内視鏡検査を受けましょう。

※当院では、大腸内視鏡検査に従事する医師5人全員が内視鏡専門医であり、安心・安全な検査を提供するように努力しています。



Message



内科一般・消化器科
院長
伊藤 治

コロナ禍の受診控えでわかった、健診や定期検査の大切さ。

新型コロナウイルス感染拡大は、長期化してすでに2年になろうとしています。当初は、病院も健診など緊急性のない医療を抑制し、さらに再開しても多くの方が受診を控えたため、年間の健診・がん検診受診者数、内視鏡検査数は大幅に減少しました。その結果、多くの病院で進行がんの患者が増え、新型コロナウイルスの二次被害とも言われています。皮肉な

ことですが、コロナ禍が健診や定期検査の大切さを教えてくれました。当院では、感染防止対策委員会と感染対策チームを中心に、徹底した感染対策を行い、健診や内視鏡検査を安心して受けられるように取り組むことで、皆さんの健康を守ることに全力を注いでいます。



冬の健康管理①

室温の急激な変化によるヒートショックに注意。浴室やトイレは暖房器具などの活用を。

Cure 検査 のおはなし

検査のこと、
詳しく知りたい。

今回のテーマ

新型コロナウイルス感染症の検査

確実な診断のベースとして、
3種の検査法で、的確に、
迅速に、結果を出しています。



それぞれの特長を活かして、 検査法を使い分ける。

新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)では、体調がおかしい、心配だと思ったとき、すぐに検査を受けることが大切です。感染したかどうかは、体内に入ったウイルスの遺伝子や、ウイルスの特徴的なたんぱく質(抗原)の有無などを調べることでわかります。

●抗原定性検査

コロナ抗原があるかないかを調べる検査。専用の装置が必要なく、30分程度で結果が出ますが、検出感度が他の検査法に比べ低く、ウイルス量が少ないと検出できないため、発熱等の症状がある人の判定に有用です。

●核酸検出検査(PCRなど)

ウイルスの遺伝子の一部を、人工的



に増幅させて検出する検査。検体の前処理や増幅等のため、結果が出るには1時間から2時間程度かかります。

●抗原定量検査

コロナ抗原がどれだけあるかを専用の装置で測定する検査。検査時間は60分程度で、検査感度は核酸検出検査と同等に高く、無症状の人、濃厚接触者となった人の診断にも有用です。空港の検疫などでも広く活用されています。

これらの検査を、当院は、令和2年10月から段階的に導入してきました。それぞれの特長を活かし、受診者の状況に応じて使い分け、確実な判定に繋がっています。

ドライブスルー方式で、 迅速に検査を実施。

当院は、ドライブスルー方式の検査を行っています。発熱などの症状のある方は、発熱外来を受診していただき、検査が必要となれば、車中で検査を受けていただきます。車でない方は、発熱外来の待合いにご案内します。一般の外来受診者と接触しないように分け、感染リスクを抑えています。まずは電話にてお問い合わせください。



Message



検査課 主任
臨床検査技師
近藤啓彰

コロナをはじめ、あらゆる病気の診断を支えています。

当院の検査課は、患者さんから採取した検体を扱う検体検査、心電図や心臓超音波など、患者さんに直接に行う生理機能検査の2室で構成。これに加え、コロナ専用の特別検査室を設け、現在は3室となり、7名の臨床検査技師が勤務しています。私たち臨床検査技師から見ると、社会に出回り始めたコロナの「迅速検査キット(抗原定性検査)」は、少し気になると

ころ。検体採取、抽出、点着、そして、結果判定を、一般の方でもできるというのですが、正しい操作で行わないと、判定を間違ってしまう可能性もあるからです。万全を期するために、やはり検査は病院で受けたいと思います。患者さんと会う機会が少ない私たちですが、正確・確実な診断を支えるという使命を胸に、日々、検査技術の向上に邁進しています。



冬の健康管理②

水分摂取量が少なくなりやすい冬の脱水に注意。起床時、外出や入浴前後、就寝前に水分補給を。

地域医療を 知ろう

今回のおはなし

人生会議 (ACP)



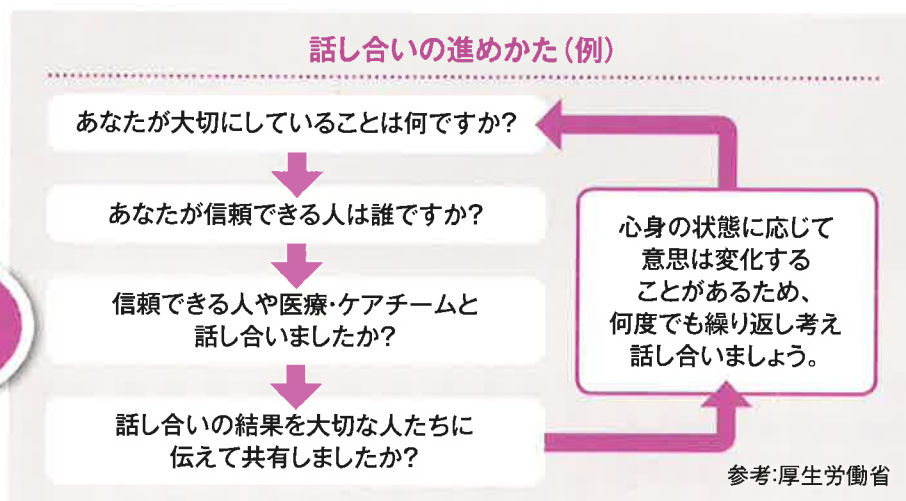
〈人生会議(ACP)〉
について学びましょう。

最も望む形で最期を迎えられるようにする。 人生会議(ACP)の目的はそこにあります。

「ACP」とは、Aはアドバンス＝前もって、Cはケア＝お世話になること、Pはプランニング＝計画することを言います。これは、人生の最終段階に、自分がどのような医療やケアを望むかを、前もって考え、信頼する人たちと繰り返し話し合う取り組みで、「人生会議」という名のもと、厚生労働省が普及活動を進めているものです。

ACPの目的は、本人が最も望む形で最期を迎えられるようにすることです。ただ、最期を迎えるまでの期間には、多くの人が体力や知力が衰え、意思表示も困難になる場合もあります。そのための、自分の思いを、家族や友人、医療・ケアチームなどと、あらかじめ共有しておくことが必要なのです。

話し合いの進め方は、下記のチャート図に示しました。心身の状態によって気持ちは変化しますから、何度でも考え、話し合いを重ねることが大切です。



みよし市民病院では

ご本人もご家族も、納得した最期を迎えていただくために。

ACPは、ご本人が今まで歩んできた人生や生活環境を無視して考えても、あまり意味がありません。総合的な目線で一歩一歩考え、その都度話し合いをする、メモに残すといった積み重ねが大切と考えます。まずはご本人が自分の人生を振り返り、大切な人たちに自分の考えを伝えていくことが大切です。お正月やお盆など、ご家族が集まる機会を利用するといいですね。

いつから始めるかは、たとえば、今までなかった病気を患ったとき。それまでの病気が進行し、人生の最後を、真剣に考えなければならない時期がきたとき。そして、あまり先はないとわかったときなどが、きっかけになるかと思います。

当院では、ACPへの職員の意識向上を図るため、県の講習会受講、多職種による協議、院内委員会などを活用しています。患者さんが、何かの機会でご入院されたとき。また、外来診療への通院が大変になったときなどに、担当スタッフや地域包括支援センターなどの職員が、「どんなお考えですか」とお聞きすることで、ご本人やご家族が「考える」「話し合う」機会を持てただけたらと思っています。

病院事業管理者
成瀬 達



冬の健康管理③

皮膚の乾燥対策にはしっかり保湿ケア。暖房器具を使用するときには低温やけどにも注意を。

TOPICS

高性能のCTを
設置しています！



高速マルチスライスCTで精密検査が受けられます。

体への負担を低減したCT装置で、 安心して精度の高い検査を受けられます。

当院では、高性能の80列マルチスライスCTスキャナを設置しています。この検査では、患者さんが寝台に横になるだけで、苦痛なく頭部や胸部・腹部の断層像(輪切り)が鮮明に撮影できます。

検査はとても簡単で、短時間ながら広範囲の撮影を行うことができ、頭部外傷、脳出血、脳梗塞等の頭部疾患から、胸部疾患および腹部臓器(胆・肝・膵・腎・膀胱など)疾患にいたるまで、全身の診断が可能です。詳しい検査内容は、医師またはスタッフまでお気軽にお尋ねください。



被ばく線量を最大75%低減。

高速マルチスライスCTは、被ばく低減機能を搭載。短時間で撮影することで、被ばく線量が最大75%低減されます。不安なくリラックスして、検査を受けていただくことができるようになりました。



検査でわかるこんな病気(例)

- くも膜下出血
- 肺炎
- 肝細胞がん
- 心臓の狭窄
- 肩や膝の骨折



みよし市民病院を支える チーム活動



vol.7

医療機器管理委員会/ 車いす点検

安心・安全にお使いいただくために、 日常、定期の点検を怠りません。

医療機器管理委員会は、各部署から職員が参加し、院内のさまざまな医療機器の管理を実施しています。そのなかの一つが「車いす点検」。院内で使用する車いすを、15名の職員が中心となり点検しています。点検は、日常点検と定期点検の二つ。日常点検は、午後5時を目安に毎日実施し、タイヤの空気圧の状態、不安定な動きがないかなどを確認しています。もちろん、感染予防のため、アルコール消毒は怠りません。一方、定期点検は、月に1回、破損確認や空気圧などを、



日常点検より詳しくチェックしています。

点検には、チェックリストを用いていますが、状況に合わせリスト項目の更新を図っています。また、職員の誰もが委員と同程度に点検できるように、点検方法や注意点を写真撮影して視覚化。院内研修会で職員への周知にも力を注いでいます。

こうした活動のなかで、令和3年の年末には、22台の車いすを新しく入れ替えました。患者さんが安心、安全に車いすをお使いいただけるよう、管理の目を光らせています。



冬の健康管理④

感染症予防のために、人混みを避け、外出時はマスク着用。手洗い、うがいもしっかりと。